

「平岡ダム、発電所工事に於ける強制連行、強制労働」の資料に対する意見

P12 上より8行目～27行目までについて

* 敗戦後の国家の治安維持は、勝戦国の意に沿った治安維持が行える、敗戦国民に行わせるのが良いとされている。

* 神道の中心的な存在である皇祖神の「天照大御神」の子孫としての天皇と国民の間には伝統的な絆がある、その天皇をどのような内容であれ、有罪にしたならば、大半の国民の感情を傷つけることになり、治安維持に支障がでることと

* 今でも、日本人の心の中に天皇陛下に対して敬意を持ち、親しみを持っている人達は沢山います。もちろんそうでない人達も存在することは知っていますが、天皇陛下に対しての侮辱的な表現の記述は非常にデリケートな側面を持っていますので、読む人達に伝えたい内容の中心部に関わることは別として考慮されたし。

P15 中絶少し下「天皇制国家は侵略戦争をすすめ、」の項より15行間

* 「天皇制国家は侵略戦争をすすめ」に特定することなく、「戦争は」と広くとらえるべきである、どの様な制度、思想であれ戦争は全ていけないのです。

どの様なことで始まった戦争でも、戦争は非人間システムを生み出し、この資料のような「強制連行」、「強制労働」そして「シベリア抑留」「原爆投下」「東京大空襲」「北京大虐殺」「真珠湾攻撃」「イワノフカ事件」「尼港事件」などなど戦争の名の下で起きた悲劇の数々は数多あります。(別紙参照)

戦争犯罪として責任を追及されることは大事ですが。責任を追及し罰を加えれば、戦争の名の下で悲劇にあわれた方の恨みは晴らせるでしょう。

しかし我々が出来ることは、犠牲になられた方々が、「もう、こんなつらいことや、苦しいこといやだ、早く平和になって欲しい、安心して暮らせる世の中になって欲しい」そう願ったであろうことを、叶えることではないでしょうか。そのために、まずは戦争の悲劇の数々、悲劇の実態を皆さんに知っていただきたい。

* 悲劇の数々の実態を知っていくにつれ、その悲惨さ、惨めさ、残酷さんに驚愕されます、そしてそんな残酷な出来事を知るのが、辛くなることもあります。「知りたくもない」と思うようになることもあります、でも我々は資料を見て、調べているだけです、悲劇の主はその残酷、悲惨、惨めを自身の自体、思考で体験した人達です、熱い焔で焼かれ、片足をもぎ取られ、何日も絶食、極寒での生活等々を感じて下さい。

若い皆様方には、心身への刺激が強すぎることもあるかも知れません。心して取り掛かって下さい。

* 責任追及の前に、戦争のない世界を作って頂きたい、それがすべての戦争で悲劇にあわれた世界中の方々の願いだと思います。